

5. 療養所内の教育をめぐる問題

ここでは、療養所内の教育をめぐる問題について、若干の語りを示しておきたい。

ある入所者（男性、1939年多磨全生園入所）は、療養所内の学校では、勉強よりも肉親である母親の看護のほうが優先されるかたちで、十分な教育を保障されなかったと語る。

わたしは、母と一緒に〔昭和14年に多磨全生園に〕入って、小学1年生のときはともかく、わたしのすぐ上の兄が、昭和18年に14歳で入院してくるんですよ。で、〔母と兄の〕ふたりとも身体が弱くてね。で、患者看護の時代でしょ。だもんだから、母が重症病棟に入った、あるいは、目の手術をした、なんかすると、「学校へ来なくてもいい。看護に行け」って。母のところへ、看護に行って、学校へ行かなくてもいいと。

ある入所者（男性、1945年栗生楽泉園に入所）は、「未感染児童」として保育所で過ごしたときの「草津小学校栗生分教場」での「肩身の狭い」思いをした体験について、つぎのように語った。彼は、病気の両親と湯之沢で生活していたので、小学校1年のときは草津の小学校の本校に通学していたことがあるのだ。

保育所へ行ったらね、やっぱし、ちょっと肩身が狭くなっちゃってね。で、〔未感染児童の〕保育所の学校もね、草津のほうが本校だから、運動会なんていうと、〔以前に草津の小学校に行っていたときの〕前の友だちに会うでしょ。やっぱし、おれ、嫌だったな。会わねえようにして、そっと逃げてたよ。団体競技なんかやっていると、かまわないけどねえ。昔のことだから、「オイッチニ、オイッチニ」「右向けえ、右」なんてこと、やるのよ。そのときは、大勢のなかだから、かまわないけども。あとになって、バラバラになった途端に、サーッと逃げてきちゃった。

また、この方は、「未感染児童保育所」の子どもたちが大きくなったとき、社会に出ていくのに大変苦労したと、つぎのように語った。

わたしの年代でねえ、保育所にいたもんたちは、苦労したのよお。わたしはねえ、〔発病して〕すんなり、ここ〔＝栗生楽泉園〕へ入っちゃったもんで、もう、それこそ、ぜんぜん苦労してないんだけどねえ。〔昭和〕25年、卒業なんだよ。わたしの同級生みたいなもんたちはね、ずいぶん苦労したのよお。

〔社会に〕出るのに苦労したの。それまでにね、昭和23年にね、社会党の政権になって、児童福祉法だかなんとかってのができるでしょ。それまでは、保育所にはね、18〔歳〕以上の子どもが、いっぱいいたの。それがね、おんだされちゃったの。それでねえ、行く場がなくて困ったんだよ。で、楽泉園にも入った人がいるの、はっきりいってね。だから、楽泉園に病気じゃない人で入ったひとが、何人かいるのよ。これ、やむをえないんだよ。どこへ行けつうのよ。急に法律がね、18〔歳〕以上はいれませんよって言われてさ。しょうがないじゃないの。あの児童福祉法ができてね。

それまでは、施設にね、いられたんだ。わたしがいたときなんかはね、〔保育所から〕

兵隊に行ったような者もいるぐらいだから。〔昭和〕20年の春にね、ひとり、Sさんっていうのがね、兵隊に行ったんだ。その下にも19だかのAってのもいたしね。18、9のも、いたのよ。女のひとも、同じぐらいの年のひと、いっぱい、いたしね。そういうことがあったのよ。

で、わたしの同級生やなんかはね、わたしあとで知っただけでも、ずいぶん苦労したのよお。保育所から、直接、社会へ出れないもんでね。雇ってくれないもんで、どうしたか。埼玉県のとこに、別の施設つくったの。で、とりあえず、ハンセンの子どもじゃないってことにして、こっちへ入れちゃって。で、そこから、職場へやろうとしたんだ。そういう苦労をしたのよ。それはね、〔昭和〕30何年ごろまでかねえ。要するに、田中角栄氏がでてきて、列島改造だあつって、仕事がワアッてある時分になれば、もうね、だれだろうと雇っちゃおうってな時代になっちゃったから。

だから、わたしが、もし——もしなんてのはないけども——病気にならなかつたら、保育所にて、仕事、どっかへ出るのに、おおいに苦労したと思う。だからね、あんまりいい仕事に就いてるのもいないしさ。

ある入所者（男性、1952年長島愛生園入所）は、邑久高校新良田教室を卒業しているが、療養所内の学校の先生たちとのあいだに距離感があったことについて、つぎのように語った。

やっぱし、〔生徒は〕職員室に入れなくって、ボタンで押して呼びださにゃあ、先生出てこないね。誰先生呼ぶときには、「プー、プー」ってモールス信号みたいに呼んで、職員室から出てきてもらうて、それで、用事があつたら話するとか。わたしは経験ないけど、ほかの人が、先生になんか買うてきてもらうて金渡すと、先生が金を洗うてからガラスに貼ったとかね。ハハハ。そういうの聞くけど。

ある退所者（男性、1953年星塚敬愛園入所）は、小学校6年生で入所したので、園内の小・中学校を4年間、長島愛生園の邑久高校新良田教室を4年間、経験している。自分の経験したことについて、つぎのように語った。

〔星塚敬愛園の学校は〕もう、ぜんぜん、程度が低かったと思いますよね。他の子どもたちが勉強をしてきてないでしょ。もっと小さいときから入ってきてる連中とかでしょ。だから、そこにあわせて勉強してるわけだから。で、複式学級ですから。だから、教育程度としてはもう、そりゃ、幼稚園ですよ。

だから、こんなところいて、外の高校に行けるはずがない。だから、早く〔退所して、外の学校に通いたいと思っていました。〕私の頭には、石を投げられた連中、あいつらに負けてたまるか、というあれが、どうしてもずっとあつたわけですよ。つねに、もう、頭のなかは、教室でそこにいても、その連中と勉強してるんじゃないで、あの連中と勉強してるっていう意識がずうつとあつたんですよ。

高校〔＝長島愛生園の新良田教室〕に行くときは、「御召列車」でした。そのとき、

私はちょっと熊本まで別行動をして、熊本から一緒に乗って行ったんですよね。鹿児島から5人だったはずですね。恵楓園からも、たしか5人だったかな。それこそ貨車につながれてね、行ったんですからね。客車一輛貸切。だから「御召列車」ですからね。それで、あっちこっち離れたところに、おいてけぼりにされるんですよね。次の時間にうまくつながらない。[岡山には]3日目に着いたんじゃないですかね。鳥栖で、4時間ぐらいね、操車場におきっぱなしにされた。もう、完全な荷物ですよ。それも、「伝染病患者移送中」とかなんとかそんなふうに出た……。

高校 [=新良田教室] はね、やっぱり、だいぶ、[先生たちの] 言ってることとやっ
てることが違いましたね。「辞書を買ってきてやるよ」って、教室では[親切そうに]
言うんですよね。ところが、職員室は完全な消毒。ビシャビシャの消毒をして、そし
て職員室に入る。職員室、こっから入っちゃいかんというふうになってるわけですか
ら。で、お金を渡すでしょ。お金は、もう、あの、[消毒液に浸したのを乾かすために]
窓に貼ってるんですよね。そんなのいっぱい目撃してますからね。あ、このやろう、
言うてることとやってること、違うじゃないか、というかね。